

August 1, 2019

**【前日の為替概況】ドル円、パウエル FRB 議長発言で 108.49 円から 109.00 円まで上昇**

31日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反発。終値は108.78円と前営業日NY終値(108.61円)と比べて17銭程度のドル高水準だった。7月ADP全米雇用報告や4-6月期米雇用コスト指数はほぼ予想の範囲内だったものの、7月米シカゴ購買部協会景気指数が44.4と予想の50.6を下回ると円買い・ドル売りがやや優勢となり、108.49円と日通し安値を付けた。

米連邦準備理事会(FRB)はFOMCで、政策金利であるフェデラルファンド(FF)金利の誘導目標を0.25%引き下げ2.00-2.25%にすると決めたと発表。市場の一部では0.50%の大幅利下げを期待した向きもあっただけに0.25%の利下げを受けて当初はドル買いで反応した。ただ、声明文には「景気拡大を維持するため適切に行動する」との文言が残った。景気減速リスクが残る限り、次回以降の会合でも引き続き利下げを実施する可能性を示唆した。FRBの保有資産の縮小終了も決定し、従来より2カ月前倒した。

パウエルFRB議長が定例記者会見で「今回の利下げは中期的な金融政策の調整であり、長期的な利下げ局面の始まりではない」との見解を示すと、再びドル買いが優勢となり109.00円まで値を上げた。なお、パウエル氏は会見終盤に「一度きりの利下げだとは言っていない」とも述べた。

ユーロドルは3営業日ぶりに反落。終値は1.1076ドルと前営業日NY終値(1.1155ドル)と比べて0.0079ドル程度のユーロ安水準だった。月末のロンドンフィキシングに絡んだユーロ売りのフローが出たことをきっかけに全般ユーロ安が進行。FRBは2008年12月以来10年半ぶりの利下げを決めたものの、「パウエルFRB議長は会見で継続利下げを否定した」との受け止めから、追加利下げに対する期待が後退するとドル買いが加速し、1.1060ドルと2017年5月16日以来約2年2カ月ぶりの安値を付けた。

ユーロ円は続落。終値は120.47円と前日NY終値(121.15円)と比べて68銭程度のユーロ安水準。ロンドン・フィキシングに絡んだユーロ売りのフローやFOMCの結果やFRB議長の発言を受けてユーロドルが下落するとユーロ円にも売りが波及し、120.35円と日通し安値を付けた。

**【本日の東京為替見通し】ドル円、トランプ大統領のFRBと中国への批判ツイートに要警戒か**

本日の東京市場のドル円は、トランプ米大統領による米連邦準備理事会(FRB)や米中通商協議への批判ツイートに警戒する展開が予想される。

ドル円は、パウエルFRB議長の発言を受けて109.00円まで上昇したものの、大口のドル売りオーダーや1日のNYカットオプションが上値を抑制した。しかしながら、上抜けた場合はストップロスが控えており要警戒か。

FOMCでは、予想通りにFF金利誘導目標が2.25-2.50%から2.00-2.25%へ0.25%引き下げられた。

9月17-18日のFOMCでの0.25%の利下げ確率は63.2%、据え置き確率は36.8%となっている。

今回のようなFOMCでの「予防的利下げ」は、1995年と1998年に実施されたが、どちらも、3回の追加利下げとなっている。しかし、パウエルFRB議長は「今回の利下げは中期的な金融政策の調整であり、長期的な利下げ局面の始まりではない。一度きりの利下げだとは言っていない」と述べており、1-2回の利下げに留まる可能性を示唆している。

パウエルFRB議長の発言を受けて、ドルは全面高、ニューヨーク株式市場は下落しており、トランプ米大統領の好まざる結果となったことで、「パウエルFRB議長に失望した。市場がパウエルFRB議長から聞きたかったことはこれが積極的な利下げサイクルの始まりであったということ」と批判しており、本日も批判ツイートに要警戒となる。

上海での第12回米中閣僚級通商協議は「建設的」と報じられているものの、懸案事項は9月に第13回米中通商協議へ先送りされ、中国側は米国から農産品の購入を増やす意向を確認し、米国側は、強制的な技術移転、知的財産権、非関税障壁を協議したと表明している。トランプ米大統領は、中国は米国をだまし続けていると批判しており、本日も為替操作への批判やドル売り介入示唆などに要警戒となる。

本日から明日にかけて日米通商協議が開催される予定だが、日本側は米農産物の輸入拡大、米国側は自動車輸入関税引き下げが協議される模様、と報じられている。

本日は新月(スーパーブラックムーン)となり、アストロロジーの観点からは、「新月のドル売り」となり、さらに、1859年以來の強力な太陽嵐の襲来が警戒されていることで、市場の根幹を成す通信機器への悪影響に要警戒となる。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

- 08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）
- 10:30 ◇ 雨宮日銀副総裁、あいさつ

## &lt;海外&gt;

- 10:30 ◇ 4-6月期豪輸入物価指数（予想：前期比1.5%）
- 10:45 ◎ 7月Caixin中国製造業購買担当者景気指数（PMI、予想：49.6）
- 16:00 ◇ 7月トルコ製造業PMI
- 16:50 ◎ 7月仏製造業PMI改定値（予想：50.0）
- 16:55 ◎ 7月独製造業PMI改定値（予想：43.1）
- 17:00 ◎ 7月ユーロ圏製造業PMI改定値（予想：46.4）
- 17:30 ◎ 7月英製造業PMI（予想：47.7）
- 20:00 ☆ 英中銀金融政策委員会（MPC）2日目、終了後政策金利発表（予想：0.75%で据え置き、資産買取プログラムは4350億ポンドで維持）
- 20:00 ☆ MPC議事要旨
- 20:00 ◎ 英中銀イングランド銀行（BOE）、四半期ごとの物価報告（インフレリポート）
- 20:30 ◎ カーニーBOE総裁、記者会見
- 20:30 ◇ 7月米企業の人員削減数（チャレンジャー・グレイ・アンド・クリスマス社調べ）
- 21:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数／失業保険継続受給者数（予想：21.4万件／167.8万人）
- 22:45 ◎ 7月米製造業PMI改定値（予想：50.0）
- 23:00 ☆ 7月米ISM製造業景気指数（予想：52.0）
- 23:00 ◇ 6月米建設支出（予想：前月比0.3%）
- 2日 03:00 ◎ 7月ブラジル貿易収支（予想：38.00億ドルの黒字）
- 日米閣僚級貿易協議（ワシントン、2日まで）
- スイス（建国記念日）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

## 【前日までの要人発言】

31日 17:42 ウイサル・トルコ中銀総裁

「インフレ目標は政府と決定したが、我々は目標達成までの手段については独立している」  
「インフレ目標の決定については懸念していない」

31日 23:25 ホワイトハウス

「中国との協議は建設的だった。次回会合は9月」

1日 03:00 米連邦公開市場委員会(FOMC)声明

「6月会合以降に得られた情報によると、労働市場は依然として堅調で、経済活動は緩やかな上昇を示している」  
「ここ数カ月の平均雇用者数は増加しており、失業率は低いまま」  
「家計支出の伸びは今年初めから上向いたように見えるが、企業の設備投資の指標は軟調だった」  
「前年同月比で見ると、全体のインフレ率と食料とエネルギー以外のインフレ率は2%を下回っている」  
「市場ベースのインフレは低い。調査に基づいた長期的なインフレ期待の指標はあまり変わっていない」  
「FF金利の目標誘導レンジの将来的な調整の時期と規模を決めるに当たり、委員会は最大雇用の目標と対称的な2%のインフレ目標との比較で経済状況の実績と見通しを評価する」  
「この評価は、労働市場の状況に関する指標、インフレ圧力やインフレ期待の指標、金融動向や国際情勢の解釈を含む幅広い情報を考慮する」  
「ジョージ・ミカンザス・シティー連銀総裁とローゼングレン・米ボストン連銀総裁が反対票を投じ、金利据え置きを主張した」  
「委員会は法律上与えられた責務に従って、雇用最大化と物価安定の促進を目指す」  
「見通しについての不確実性が残る」  
「これらの不確実性とインフレ圧力の弱さを踏まえて、委員会は経済見通しに対する情報の影響を綿密に監視し適切に行動する」  
「保有証券の縮小を8月に停止、従来より2カ月前倒し」

1日 03:38 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長

「利下げは下方リスクに対する保険」  
「利下げは物価2%目標達成を後押し」  
「米経済見通しは依然として良好」  
「FRBは低調な世界経済成長や通商政策巡る不確実性、インフレ抑制を懸念」  
「経済は長期間目標に近い」

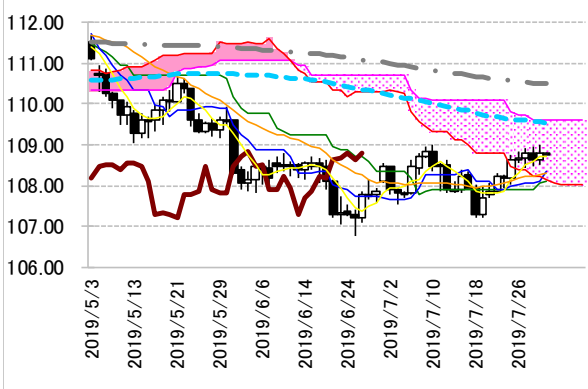
「我々は政策の中期調整として考えている」  
「足もとの利下げ決定は利下げ局面開始とは異なる」  
「景気拡大が続かない理由はない」  
「政治的配慮は決して勘案しない」  
「バランスシート縮小は一貫性と単純さの問題」  
「一度きりの利下げだとは言っていない」

1日 05:54 トランプ米大統領

「市場がパウエルFRB議長から聞いたかったことはこれが積極的な利下げサイクルの始まりであったということ」  
「パウエルFRB議長に失望。ただ、量的引き締め終了は評価」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

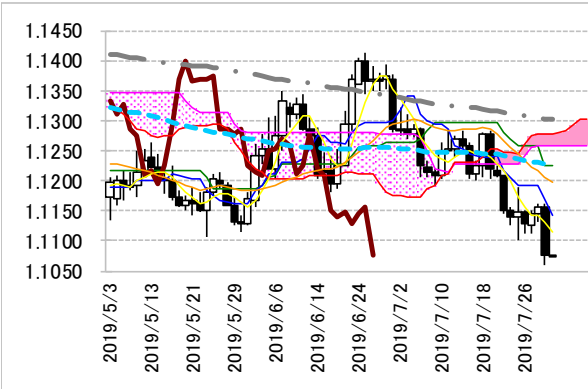


### <ドル円＝雲の下限を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の中で推移していることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。ネック・ライン 108.99円を上抜けた場合、ダブル・ボトム (106.78円・107.21円) が完成する。

本日は、雲の下限を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下回った場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	109.93(5/30 高値)
レジスタンス 1	109.59(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	108.78
サポート 1	108.16(日足一目均衡表・雲の下限)

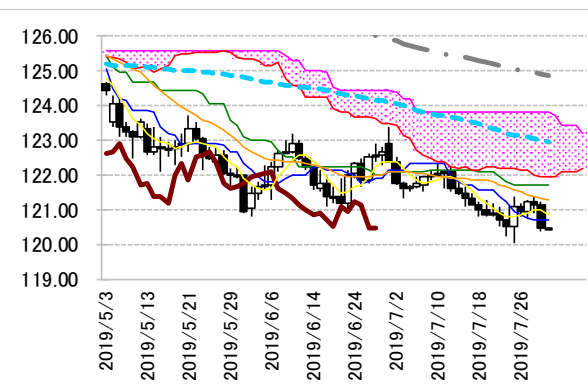


### <ユーロドル＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

大陰線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1143(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1076
サポート 1	1.0975(2017/5/16 安値)

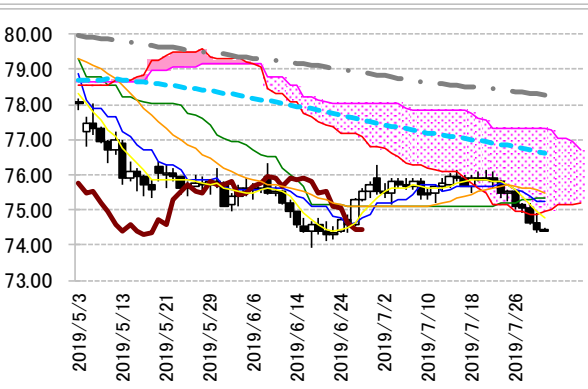


### <ユーロ円＝基準線を抵抗に売りスタンス>

陰線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。綾戻しで反発していたものの、孕み線、2手連続陰線で下落トレンド再開の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を抵抗に売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	121.71(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	120.47
サポート 1	120.05(7/25 安値)



### <豪ドル円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。4手連続陰線により、続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	75.26(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	74.45
サポート 1	73.93(6/18 安値)

